



## 芸術監督・熊川哲也が語る！ Kバレエ 25周年記念シーズン第1弾 熊川版 新制作「眠れる森の美女」

この秋、「K-BALLET COMPANY」は「K-BALLET TOKYO」へと名称を変更、設立25周年記念シーズンをスタートする。  
国際都市東京を代表する芸術団体としてさらに躍進すべく、2年にわたり豪華ラインナップを展開するこの特別シーズンの幕開けを飾るのは、新制作『眠れる森の美女』。それは、名だたる古典バレエを独自のプロダクションとして鮮やかに生まれ変わらせてきた熊川哲也がかつてない大胆なアプローチで生み出す、全く新たな古典の世界だ。誰もが知る物語をベースに置きつつ、驚くべき発想で創造した独自のストーリー構成、観客を確実に別世界へととざなう壮大にしてドラマティックな舞台美術と衣裳の数々、そして、自らが天才ダンサーであればこそその高度な振付が生む踊りの圧倒的な見応え——Kバレエ25周年に満を持して贈る、このビッグ・プロジェクトは見逃さない！



## 「典型的な古典を夢見る人たちは、この舞台を見ないほうがいい」

——この10月、熊川哲也さん台本・演出・振付の『眠れる森の美女』が初演を迎えます。

以前のプロダクションを上演したのは2016年が最後でしたから、「なぜ『眠れる森の美女』をやらないのですか」という声がいろいろなところから聞こえてきていました。そういう皆さんの声をもう無視できない。ただ僕自身は正直なところ、『眠れる森の美女』というバレエはあまり好きではないのです。もちろん豪華絢爛で崇高な作品であり、英国ロイヤル・バレエ団などでは神聖視されているところがある。言うまでもなくチャイコフスキーの音楽は本当に魅力的です。昂揚するし、チャイコフスキーは素晴らしい作曲家だと改めて思います。しかし、物語自体は平板で、キャラクターの設定等にも当時の権力者の意向や劇場の都合が色濃く反映されており、座ってずっと見続けるのは僕にとっては修行のようなもの(笑)。それなのに、『白鳥の湖』がバレエ団ごとにさまざまに大きな改訂が施されているのとは対照的に、『眠れる森の美女』の場合、主だったバレエ団のものは舞台美術や衣裳が変わっても、中身を大きく変えることはないのです。

——熊川さんが『ジゼル』に続いて初めて『眠れる森の美女』を演出したのは2002年。その後『白鳥の湖』『くるみ割り人形』『海賊』と続く舞台美術家ヨランダ・ソナベンドと組んでの独創的な演出が登場する以前のことでした。

この時はオーセンティックな演出でした。それでもピーター・ファーマーによる舞台美術は美しく、こんな素晴らしい舞台が日本に誕生したのだと話題になりました。しかし、現在から振り返ると、その後の僕の演出方法とはカラーが違うと言われることはよくあります。つまりKバレエ色が薄いということですね。

——そういう意味で今回の新演出が登場するということは、熊川さんの中に何か新しい面白いアイデアが生まれた？

アイデアがなければ改めて新演出を手掛けるとは言いません。もちろん必ず成功を取めるだろうと自負しています。ただ、典型的な古典の世界を夢見る人たちは見ないほうがいい。絶対見に来ないように、とあえてここで言うておきます(笑)。

——挑発的な発言ですが、それだけ大きく手を加えるということですね。  
大きく変えますよ。それでも今のところ5割は古典の振付をそのまま残しています。もちろんそれ以外の、大きく変えると言った部分も、古典と言えるような動きと構成、音楽の使い方はしています。ですから、トータルとしてはやはり古典のイメージは決して崩していません。僕の作品世界ではそこは守るべき鉄則だと考えていますから。

——具体的にどんなふうになるのか少し教えてくださいませんか？

オーロラ姫の誕生からバレエは始まるわけですが、オーセンティックな演出では姫君の洗礼式自体がとても儀式張っていて僕の好みではないのです。ロイヤルファミリーが気の置けない友人たちとお酒を飲んでいるような、そんなプライベート感のある雰囲気を出したい。僕の演出では、フロレスタン王と友人関係にある4つの国の王家が姫君を祝福にやってきました。各国にはそれぞれ守護妖精が付いており、フロレスタン国の守護妖精がリラの精です。4つの王家にはそれぞれ男の子がいて、オーロラが16歳になった時、この4人から彼女の婚約者が選ばれることになる。のちに成長した彼らがローズ・アダージオに登場することになりますが、そのうちの1人がデジレ王子です。

カラボスは悪の精ではなく、カラボス王国の女王。洗礼式に呼ばれなかったことに怒り、フロレスタン王国を襲うも返り討ちに遭う。リラの精によって杖に封じ込められ、森の奥深くに封印されてしまうのです。16年後、デジレ王子はカラボスの手下である赤ずきんに杖のある場所へと誘われ

て、囚らずもカラボスを復活させてしまう。カラボスの美しさに心奪われ、呪いをかけられた王子は、彼女に操られてオーロラ姫を死へと導いてしまうのです。果たして王子は姫を助けることができるのか。物語はさらに展開していきます。

——全く新しいストーリーが誕生する感じですね。王子役のダンサーも踊りがいいのでは？

このデジレ王子は僕が現役時代に自分に振り付けていたら、皆さんをさぞ楽しませていただろうね。登場の仕方も古典と違って、かなりかっこいい王子になっています。だから、今回僕のアイディアを具現化して喝采を浴びるだろうデジレ役の4人は本当にラッキーだと思いますよ。

もちろん、この新たな物語世界を彩る舞台装置や衣裳についても、一切の妥協はありません。数あるKバレエのプロダクションの中でも、規模や費用等あらゆる面で今回は史上最大と言えます。——舞台が開幕するのが今から楽しみです。来年Kバレエは創立25周年を迎えますね。率直なお気持ちは？

25年を経てKバレエがそれなりの社会的立場、認知度を得られてきたことを感じます。先日、組織として長きにわたり確たる運営をしている例として、劇団四季や宝塚と並び、Kバレエの名が取り上げられるようになってきているという話を聞きました。そういう印象を皆さんが持ってくれるようになったのだと思うと感慨深いものがある。僕自身がやりたいことを情熱を持って取り組んできた、その結果に過ぎないのですが。これからも新作を生み出し、未来を作る教育にもこれまで以上に力を注いでいきたいですね。

——9月からKバレエスクールには、長年ロイヤル・バレエ・スクールの教師として活躍された蔵健太さんが校長に就任することも発表されました。さらに、高度なバレエ教育機関としてKバレエアカデミーが創立されることも話題ですね。

バレエという芸術に触れることは、どなたの人

生にも豊かさをもたらすものだと思自負しています。ですからKバレエスクールは子供から大人の方まであらゆる方にバレエとの出会いを提供する最高の場にした。一方アカデミーは、プロになりたい、なれる可能性を持つ生徒だけを集め、プロになるための教育を徹底して行う場所とします。蔵校長はロイヤル・バレエ・スクールで培った第一線の知見を持ち、新たなアイデアにも溢れている。アカデミーで彼の手腕が生きることはもちろんですが、レベルや年齢に応じたより良いバレエ環境の提供にも情熱を燃やしてくれています。

——同時にカンパニーの名称がK-BALLET TOKYOと改称されますね。

1月にローザンヌ国際バレエコンクールに審査員として招かれた時、ダンサーとしての自分の名は世界中が知ってくださっているけれども、Kバレエの知名度はそこに比例してはいないと感じる機会が多々あったのです。そこで、よりわかりやすく「TOKYO」の名を加え、ボーダレスに定着させたい、と。国際都市東京を拠点に活動するバレエ団であることを、今後もっとアピールしていきたいと考えています。それに、「TOKYO」ってかっこいいですからね(笑)。

取材・文：浜野文雄(新書館「ダンスマガジン」編集委員)

**K-BALLET TOKYO「眠れる森の美女」特別番組(TBS)、放送決定!**  
9月10日(日) 16:00~16:30(関東ローカル)  
※放送日時の変更の可能性がございます。


芸術監督・熊川哲也が満を持して挑む『眠れる森の美女』新制作。密着取材から見えてきた、妥協を許さない舞台作りへのこだわり、着想の原点。「まず自分が感動できるかどうか」不朽の名作を前に問われる信念。そして奇才が生み出した新たな古典とは。熊川版古典バレエの誕生までを追った。

# オーロラ姫を死に導いたのは、王子だった——

Kamakawa's Production of THE SLEEPING BEAUTY

## Florestan

[フロロスタン王国]




フロロスタン国の王と王妃  
King & Queen

脚本・演出・振付: 熊川哲也  
音楽: ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー  
美術デザイン: ダニエル・オストリング  
衣装デザイン: アンゲリーナ・アトラギッチ  
照明デザイン: 足立 恒

## オーロラ姫 Princess Aurora


フロロスタン国の女王



親子


## リラの精 The Blue Fairy

フロロスタン国の守護妖精



## Carabosse

[カラボス王国]




誕生祝いの晩餐会で  
姫の死を予告

杖に封印

## デジレ王子 Prince Désiré

近隣国の王子。  
オーロラの誕生祝いに両親と共に参列。  
のちにオーロラの婚約者候補のひとり




杖の封印を  
解いてしまう

オーロラ姫を  
殺そう  
呪いをかける

王子を騙して  
杖のもとへいざなう


森で出会い、惹かれ合う  
だが……

### 森の住人たち




青い鳥 花々 カエル 猫

### 狼




### 赤ずきん

実はカラボスの手下



### 各国の守護妖精たち



近隣国の王夫妻と王子たち  
オーロラ誕生祝いの晩餐会に招かれる。  
16年後、王子たちは姫の婚約者候補に

■ = 誕生時  
■ = 16年後

アンゲリーナ・アトラギッチによる新制作「眠れる森の美女」デザイン画 (2023年7月現在)

## Story

フロロスタン王国の隣国の君主である魔女カラボスは、オーロラ姫の誕生を祝う会に招かれず、激怒している。会には、親交の深い4つの国から王夫妻と子供たち(のちにオーロラの婚約者候補となる4人の王子)、各国を守護する妖精たちが招待されている。そこへカラボスが乱入。「姫は成長したら命を落とす運命だ」と予告するが、フロロスタン国の守護妖精リラはカラボスを杖の中に封印し、平穏を守る。森の奥深くに封印されたカラボスは、復活の日を待っている。

オーロラ姫はまもなく16歳の誕生日を迎えようとしている。ある日、森で自然界の仲間たちと楽しいひとときを過ごしていると、狼が現れ、姫を襲おうとする。それを助けたのは、通りかかったデジレ王子だ。16年前にすでに出会っていることは知らずとも、ふたりはたちまち惹かれ合う。姫は一輪のバラを王子に渡し、森をあとにする。

王子のもとに赤ずきんが現れる。実はカラボスの手下である彼女は、王子を騙して封印された杖のもとへと導く。王子がその杖を手にとると、瞬間にカラボスが蘇る。そして予告を果たすべく、姫を殺めるよう王子に呪いをかけ、悪の手先としてしまうカラボス。

オーロラ姫の誕生日。婚約者候補の王子たちの中にデジレの姿を見つけた姫は、森で会った時とは別人のような彼に戸惑う。カラボスに操られている王子は危険な魅力で姫を惑わし、カラボスの目論見どおり、彼女を死に導いてしまう。やがて呪いが解け、自らの行いを悔やむ王子。姫を助ける術はあるのか、果たして……。

## 世界を魅了する異才デザイナーたちとのタッグが生む 絢爛豪華かつ神秘あふれる舞台美術と衣裳が舞台を彩る!

衣裳デザインを手掛けるのは、初起用のアンゲリーナ・アトラギッチ。ポリシヨイ劇場をはじめとする世界の名だたる劇場で演劇、オペラ、バレエに携わり、これまで手掛けた作品は150作以上。バレエ界においてはミハイロフスキー・バレエのナチョドゥット版『白鳥の湖』『ラ・バヤデル』で大きな反響を呼んだことが記憶に新しい。そんな彼女にとって今回が日本デビューとなる。

「熊川さんと最初にお会いした時、まるで長い付き合いであるかのように、私たちはすぐにお互いの芸術性を認め合い、共通の美学を持っていると感じました。彼との対話はとても刺激的! 実際、語り聞かせてくれた物語やコンセプトに鮮烈なインスピレーションを受け、これまでにない短期間でデッサンのほとんどを一気に描きあげたほどです。

古典的な衣裳の中に現代的な要素を取り入れたいと常に思っている私にとって、プティパの原典版の物語をベースにした全く新しい台本を持つこの熊川版は、じつに興味深いプロダクションです。今回の衣裳は、ももとの時代背景である17世紀末から19世紀末に時代を移し、ウィクトリア朝後期をデザインの基調としました。宮廷や王、王妃、そして王女が華やかに存在したこの時代のほうが、熊川版の華麗な物語にマッチし、観客はよりリアルな感覚でその世界に

入り込めると思ったからです」(アトラギッチ)

色のグラデーションや何層にも重ねたレース使いが特徴的な彼女の作品は、精密でありエレガント。豪華さと繊細さ、古典と現代的センスが融合するその美しい衣裳の1点1点、さらには幕ごとに異なる雰囲気を作り出すべく計算され尽くした色彩美も必見だ。

\*\*\*

美術デザインは、メトロポリタン歌劇場など一流オペラ劇場の舞台を手掛け、Kバレエでは「カルメン」「クレオパトラ」「蝶々夫人」等、熊川の世界を見事に具現化してきたダニエル・オストリング。「僕が常に大切にしているのは、デザインで物語を伝えること。たとえば、この新たな物語では、愛に満ちた美しい世界から突然、悪夢が始まります。その瞬間にその場の何もかもが変化するのです。熊川さんはとてもミステリアスな、興味深いやり方で観客をそこにいざなう演出プランを聞かせてくれ、僕はその「一瞬にして起こる変化」をデザインにおいて表現したいと考えました。

メインの建造物は全幕を通して常に舞台上にあり、すべての出来事とその空間で起こります。一つの空間にいながらして変化を起こす、そここそが今回の美術の目指すところ。出来事が起きている場所から次の場所へと、大きくセットを組み替えたらず、観客の意識を移動させたいのです。揺るぎない重厚な趣のある宮廷から、ファンタジックで美しい森へ、さらには恐怖に満ちた森の奥深くへ……というように」(オストリング)

このふたりの異才による「全く新たなおとぎ話」の世界へといざなう魅惑の美術と衣裳に、ぜひ注目を!



[大阪] 11月3日(金・祝) 12:00 / 16:30 フェスティバルホール  
[福岡] 11月7日(火) 18:30 福岡サンパレスホテル&ホール

最新制作状況をSNSにて  
随時公開中!



最新情報は「Kバレエ」で検索

©キャスト予定は2023年7月1日現在。出演者の病気や怪我など、やむを得ない事情により変更となる場合があります。公演中止の場合を除き、実施するすべての公演に関して、主演者をはじめとするキャスト変更に伴うチケット代金の払い戻し、公演日や券種の変更は原則としてお受けできません。©本公演は5歳以上の入場が可能です。◎開場は開演の30分前。

主催: TBS 特別協賛: 大和ハウス工業株式会社  
協賛: SL Creations ヤマノホールディングス オフィシャルアライン: ANA  
協力: Bunkamura 制作: K-BALLET / TBS

日程	10/8(日)	10/9(月・祝)	10/14(土)	10/15(日)
開演	16:00	14:00	18:30	13:00
オーロラ姫	日高世菜	飯島望未	岩井優花	成田紗弥
デジレ王子	山本雅也	石橋奨也	栗山 廉	堀内将平
カラボス	浅川紫織	日高世菜	小林美奈	浅川紫織
リラの精	成田紗弥	岩井優花	戸田梨紗子	小林美奈

日程	10/24(火)	10/25(水)	10/26(木)	10/26(木)	10/27(金)	10/28(土)	10/28(土)	10/29(日)
開演	14:00	14:00	14:00	18:30	14:00	12:00	16:30	13:00
オーロラ姫	飯島望未	日高世菜	成田紗弥	飯島望未	日高世菜	成田紗弥	飯島望未	岩井優花
デジレ王子	石橋奨也	山本雅也	堀内将平	石橋奨也	山本雅也	堀内将平	石橋奨也	栗山 廉
カラボス	日高世菜	浅川紫織	浅川紫織	浅川紫織	浅川紫織	日高世菜	浅川紫織	小林美奈
リラの精	岩井優花	成田紗弥	小林美奈	岩井優花	成田紗弥	小林美奈	岩井優花	戸田梨紗子

指揮: 井田勝大 管弦楽: シアター オーケストラトウキョウ

(料金(税込)) S席 ¥17,000/A席 ¥13,000/B席 ¥9,000/C席 ¥7,000/D席 ¥5,000 (D席は東京文化会館のみ)

K親子席 ¥17,000 ※大人1名+子供1名(5歳以上小学6年生以下)(A席エリア) 学生券 ¥4,000 ※中学生以上25歳以下/当日学生証を提示の上引き換え/席位置未定

Kプラチナシート ¥21,000 ※1列、2列と20列。オリジナルグッズ付(Bunkamura オーチャードホール) 1列、20列。オリジナルグッズ付(東京文化会館 大ホール)

※A親子席・学生券はTBSチケット、チケットぴあWEBにて取り扱い。※KプラチナシートはTBSチケット、チケットスペースにて取り扱い。

(お問い合わせ・ご予約) チケットスペース 03-3234-9999

(チケット取り扱い) TBSチケット 検索

チケットぴあ、イープラス、ローソンチケット、劇場でも販売中!

## フリーデマン・フォーゲル 特別講習会 応募受付中! 男子のみのボーイズクラスも開催!

彫刻のように美しいラインと圧巻の表現力で世界を魅了するトップ・ダンサー フリーデマン・フォーゲル。今夏、その完璧なまでの美しさを、間近で学べる講習会の開催が決定しました!

8月9日(水)  
場所: K-BALLET SCHOOL  
詳細・お申込みはこちらから→

